

刀又仙な僧侶たち

54



特集 少女がつむぐ、等身大の仏教『仏女新聞』

譲り伝えられてきた仏像と対面したり、祈りの場である堂宇に胸を打たれたり、季節ごとに装いを変える草花を愛でたり、受付に置かれた記念スタンプを思い出にしたり。お寺巡りの魅力は色々なところに。



日常は仏教の実践フィールドだ

仏教が日本に伝わってから1400年以上。いまや、その布教スタイルは多種多様だ。お寺では、音楽バンドの演奏が鳴り響き、プロジェクトヨンマッピングが本堂を鮮やかに彩る。ヨガ教室やマルシェ、修行体験の開催はもう当たり前。バンドやDJ、手品から茶道に武道まで、自分の特技を上手に活用して布教する僧侶も多い。もちろんそこに伝統的な布教も加わる。

様々な試行錯誤により、ここ数年で仏教に触れるための

入り口は増え、その敷居は低くなった。そして、数多くの人が仏教を求め、お寺や僧侶を訪ねていたことは本当に嬉しいことだ。

だが、最近ふと思う。仏教を実践するため、入り口から先に進んでいる人はどれほどいるのだろうか。入り口で満足してしまっている人はいないか？ 進み方が分からず留まっている人はいないか？ そこが仏教の入り口だということにすら気づいていない人はいないか？

仏教は実践していく中で気づきにこそ旨みがあると思う。入り口から進み、出会った様々な仏縁から学んだことを日常に持ち帰って実践する。この繰り返しにより「自分なりの仏教の理解」が生まれるのではないだろうか。

仏教と気軽に接点を持てる今だからこそ、もう一度、現代における仏教の旨みについて考え、伝えていくことができればと思う。

フリースタイルな僧侶たち



BUTSUJO SHINBUN

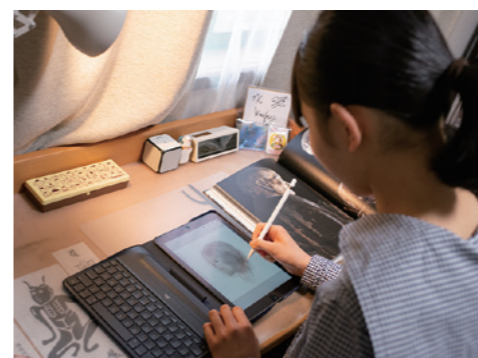
少女がつむぐ、等身大の仏教『仏女新聞』

編集部=写真・文
photography & text: FREEMONK

いいじま・かりん

2003年奈良県生まれ。小学校1年生のときに平城遷都1300年祭があり、多くの寺社に参拝する機会に恵まれる。寺院に足繁く通うことから仏教への関心を深めていく。小学校3年生の6月に思い立って教室に掲示したのが現在に続く『仏女新聞』である。現在、高校1年生。フィールドワークに時間が割けないことが最近の悩み。

飯島可琳さん(仏女新聞社主筆)



かべ新聞。懐かしい響きだと感じる読者もいるのではないだろうか。小学校や中学校の課題で経験したことがあるだろう。もしかすると今まさに執筆中という小学生の読者もいるかもしれない。学校での出来事や、地域の歴史、草花のイラスト、それらを集めて一枚の紙にまとめ、自分の名前を入れ、タイトルをつけて貼り出す。私たちが「記事を書く」ということを初めて体験する場所、私たちが初めて触れるフリーペーパー、それが「かべ新聞」だろう。

『仏女新聞』はそんなかべ新聞のひとつだ。タイトルからもわかる通り仏教を

テーマにしており、仏像やお寺、行事など色とりどりのコンテンツを取り上げて記事にしている。写真やイラストも織り交ぜられたり、ミニコーナーがあったりと、さながら本当の新聞のような構成だ。

この新聞は主に、ひとりの女性の手によって作られている。それも、平成どころか2000年代生まれの女性だということから驚きだ。仏女新聞は奇しくも「フリースタイルな僧侶たち」と同じ、仏教系フリーペーパーである。浅からぬご縁を感じたフリスタブ編集部は、この新聞がどんな想いで発行されてきたかが知りたくなり、仏女新聞社を訪ねることにした。

調べるたびに、興味が湧いた それをまとめるのが、好きだった

仏女新聞って？

仏女新聞。タイトルからわかるように、テーマにしているのはもちろん仏教だ。各号ごとにテーマが決まっており、奈良・近畿を中心に各地の仏像やお寺、行事などがまとめられている。かべ新聞という形式上ポリュームはさほど多くはなく、毎月1000〜2000字程度の記事だが読みごたえは十分。テーマに沿って、仏像のちやちや表情、持物だけでなく、その背景にあるエピソードが紹介されている。また、僧侶に話を聞いてお寺の様子がありありとわかるように描写されていたり、行事や展示会に実際に参加したうえで感じたことが丁寧に述べられていたり、読み物として素直に面白い。子どもが書いている新聞ということで、どれほどのものかと思いつつ読むと期待を裏切られることだろう。もちろん、良い意味で。

この新聞を発行しているのは、奈良県生駒市に住む飯島可琳さん。この春からは高校生となり、奈良県内の高校に通う15歳の女の子だ。得意科目は英語と古文、苦手科目は体育、猫が好きだという、ごくごく普通の高校生である。仏女新聞は彼女の手に

とが多いが、取材先から提供された画像や可琳さん自身が書いたイラストを掲載することもある。できあがったらまずは両親に見せて、わかりにくいところの指摘を受ける。そうやって推敲を重ね、納得できる出来栄になったら完成である。この作業を繰り返して仏女新聞は発行されてきた。

もちろん両親の協力も新聞の発行には欠かせなかった。見たい仏像や行きたいお寺を決めるのは可琳さんだ。それを受けてご開帳などの日程に合わせスケジュールを調整したり、休みの日に一緒に出かけたり。さらには可琳さんに依頼された資料を図書館や古書店で入手する。現地に足を運んで自分自身で感じたことに資料から得られた知識が加わることで、より深い理解へと結びついている。それが新聞のクオリティの土台となっているのだろう。家族の力があってこそこの仏女新聞とも言える。

2016年まではほぼ毎月の発行を続けていた。中学生になつてからは制作に集中できる自由な時間が減ったが、年々数回は発行してきた。発行頻度は落ちて、なるべく定期的な発行を目指したいということだ。高校生になった今、仏女新聞と

よって作られている。もちろん家族の協力もあるが、取材、写真撮影、記事執筆、レイアウト、掲載許可の申請など、新聞の制作に関わることを一人の手で行ってきた。

「可琳さんが仏教に興味を持つきっかけは、幼稚園や小学校の遠足で奈良に出かけたことだという。集合場所の近鉄奈良駅前に立っている銅像。東大寺の方角を見つめるこの人はいったいどんな人なのか、興味が湧いた。その人が奈良の大仏造立のために尽力した僧侶・行基であることを知り、近畿各地にある足跡や生誕地、墓所などを両親とともに訪ねた。小学生になつてから、それらを夏休みの自由研究として模造紙にまとめて発表したものが、仏女新聞の原型となつた。」

さらにそのころ奈良では「平成遷都1300年祭」と銘打って様々な催しが行われており、興味の赴くままに、普段は見られない秘仏の御開帳に足を運んだ。なかでも興福寺は思い入れの深いお寺だ。南円堂の御開帳に行つたことをきっかけとして、東金堂後堂の公開など幾度も訪れてきた。通り抜けられる場所も多く、猫がいたこともその理由のひとつらしい。

お参りするお寺が増えるにつれて、人との交流も深まってきた。物怖じせず境内にいる僧侶に話しかけ、気になったことを何でも質問したそう。興福寺や東大寺、薬師寺などには顔なじみの僧侶もできた。聞いたことは忘れないようメモに書き留めるようにしていたという。

そうしてお寺を巡りながらいろいろ話を聞いて記録を取るうちに、「小学校で作つていかべ新聞に、まとめたい」と思いうようになった。お父さんの勧めもあって、文章はパソコンで書くことにした。小学校では日記を毎日書く課題が出されていたこともあり、文章を書くことは苦ではなかつたそう。良きそうなフォントを選んで「仏女新聞」とタイトルをつけ、それを学校の壁に貼り出した。

転機となつたのは4年生のとき。興福寺特集号を僧侶に見せると、「境内で子ども向けに配布したい」と提案された。広く公開するために体裁を整えられ、配布された新聞は子どもだけにとどまらず、老若男女に好評だった。その後はウェブ上でも見られるようになり、小学生が作つているというところもあって各種メディアでも取り上げられてきた。こういった経緯もあつ

て、仏女新聞は多くの人の目に触れることになった。しかし可琳さんにとっては、注目されることよりも、新聞を作ることに面白さを感じていた。

「新聞のかたちにまとめるのが楽しかった。調べるたびに新しいことに興味が湧いて、それをまとめるのが好きだった。だから続けてこられた」

可琳さんが新聞を作るときは、方眼紙を使いテーマに沿ったものになるよう全体のレイアウトを考え、写真や文章の配置を決めていく。それができたら、まずは導入文から書き始める。あとは頭に浮かぶ言葉で冒頭から文章を作っていくそう。

執筆の際には全体の文章量を考え、それに応じて記事にしていくな。時には辞書を引いて、言葉の意味をきちんと確かめながら文字にする。写真については自分で撮影したものを使うこ

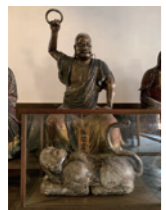


近鉄奈良駅改札を出てすぐの広場にある行基像

2019年四月号 仏女新聞 編集・発行 飯島可琳

「禅」はしばしば日本人のたしなみを象徴する言葉として用いられている。外国人宿泊客の多いあるホテルは、基本的に西洋のスタイルの中に和風のモチーフを取り入れた客室を「エグゼクティブハウス禅」と名付けている。「禅」は本独自の情緒」という認識は私の中にもうずらとあつた。坐禅を組み、自分を見つめる作法にある静けさは、いわゆる日本らしさにとりくつる。しかし、禅の教えはもともとインドから中国を経て日本へと伝えられたものだ。その「Japanese ZEN」と言

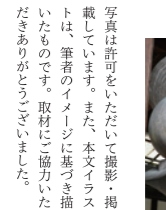
「禅」はしばしば日本人のたしなみを象徴する言葉として用いられている。外国人宿泊客の多いあるホテルは、基本的に西洋のスタイルの中に和風のモチーフを取り入れた客室を「エグゼクティブハウス禅」と名付けている。「禅」は本独自の情緒」という認識は私の中にもうずらとあつた。坐禅を組み、自分を見つめる作法にある静けさは、いわゆる日本らしさにとりくつる。しかし、禅の教えはもともとインドから中国を経て日本へと伝えられたものだ。その「Japanese ZEN」と言



「禅」はしばしば日本人のたしなみを象徴する言葉として用いられている。外国人宿泊客の多いあるホテルは、基本的に西洋のスタイルの中に和風のモチーフを取り入れた客室を「エグゼクティブハウス禅」と名付けている。「禅」は本独自の情緒」という認識は私の中にもうずらとあつた。坐禅を組み、自分を見つめる作法にある静けさは、いわゆる日本らしさにとりくつる。しかし、禅の教えはもともとインドから中国を経て日本へと伝えられたものだ。その「Japanese ZEN」と言



「禅」はしばしば日本人のたしなみを象徴する言葉として用いられている。外国人宿泊客の多いあるホテルは、基本的に西洋のスタイルの中に和風のモチーフを取り入れた客室を「エグゼクティブハウス禅」と名付けている。「禅」は本独自の情緒」という認識は私の中にもうずらとあつた。坐禅を組み、自分を見つめる作法にある静けさは、いわゆる日本らしさにとりくつる。しかし、禅の教えはもともとインドから中国を経て日本へと伝えられたものだ。その「Japanese ZEN」と言



「禅」はしばしば日本人のたしなみを象徴する言葉として用いられている。外国人宿泊客の多いあるホテルは、基本的に西洋のスタイルの中に和風のモチーフを取り入れた客室を「エグゼクティブハウス禅」と名付けている。「禅」は本独自の情緒」という認識は私の中にもうずらとあつた。坐禅を組み、自分を見つめる作法にある静けさは、いわゆる日本らしさにとりくつる。しかし、禅の教えはもともとインドから中国を経て日本へと伝えられたものだ。その「Japanese ZEN」と言



いうタイトルにもなんとなく気
恥ずかしさを覚えることもある。
代わるタイトルがなかなか思い
つかず今後どういう形での発行
になるかは模索中だが、できる
限り続けていきたいと語ってい
た。高校生になったので一人
お寺にも行ってみたいと可琳さ
んが話す隣で、お父さんはど
か寂しげな様子だった。

仏教に対する真摯さ

仏女新聞を読んでいると、ふ
いに心惹かれる表現がある。
「菩薩が奈良を想って玉眼に涙
を溜めているように見えた／阿
弥陀様は何か少し話したいこと
があるかのように口を少し開い
ている／菩薩がふっと私の方を
見下ろした瞬間にも思えますし、
ずっと前から私の方を見ている
ようにも思えます／東金堂に鎮
座した今日の仏頭は、間違いな
く微笑んでいた／実際に展示室
に入ると、私が十大弟子立像の
目を借りて釈迦如来を透視して
いるような感覚を覚えた」。こ
れらを読んだときに湧き出た気
持ちは、「可琳さんのなかでは、
仏像が生きている」ということ
だった。

可琳さんは仏像を見るときに
表情から入るそうだ。仏像の表

情をよく観察し、仏さまはどん
な気持ちなのか考えてみる。笑
っているのか、怒っているのか、
泣いているのか。そこから身体
や手足、衣や持物に視線を移し
ていく。隅々まで行き届いた仏
師のこだわりが心惹かれるとい
う。特に快慶作の仏像は可琳さ
んのイメージする仏さまにびつ
たりとお気に入りだ。快慶展に
行ったときに気になった仏像を
訪ねて、後日そのお寺までお参
りしたそうだ。

「博物館では一度にたくさん
の仏像が見られるので良いけど、
実際にどのように祀られている
のか見に行くことも大事だと思
う」と自身の想いを話してくれ
た。

仏像は歴史を背負っている。
雨に濡れたり、壊れてしまっ
たり、海を渡ったり、燃えてしま
うこともある。そんななかでも
雨に濡れぬよう堂宇が造られ、
壊れてしまった部分が修復され、
再び海の向こうから呼び戻され、
同じ想いの元に造り直され、祈
りがささげられて今にまで伝え
られている。可琳さんにはそん
な歴史とともに、純粋に感じら
れるままの仏像が見えているの
だろう。それが生き生きとした、
瑞々しい表現として仏女新聞に
は表れている。

お寺や仏像そのものだけでな
く、人を通しての交流があった
こともその理由のひとつだろう。
その人を通してお寺の行事にも
興味を持ち、繰り返し参加して
きた。お母さんは「人との出会
いに恵まれたと思う」と振り
返っていた。遠い昔から現在に
至るまで、人の手で守ってこら
れたことを実感しているからこ
そ、守られたものに息づいてい
る生命を感じ取ることができた
のかもしれない。

拝観や取材の際にもその精神
が活きている。立ち入り禁止と
されている場所にはもちろん入
らない。行事の写真もなるべく
近くで良い写真を、というので
はなく自分の居るべき場所から
ありのままを撮影する。お参り
が終わってお寺を出るときには
必ず振り返って一礼する。夜遅
くの行事でも僧侶の真剣な祈り
に対して、きちんと正座して真
摯に聴聞しているという。

「仏像はもちろん好きだし、す
ごくきれいだなと思うけど、そ
れだけでは成り立たない。祈る
人がいるから作られている。仏
像だけを見ていても真髄はわか
らないと思う」と可琳さんは語
る。仏教に対する真摯さ。それ
が可琳さんの魅力であり、仏女
新聞の魅力でもあるのだろう。

仏教への入り口

仏女新聞は決して突飛なもの
ではなく、だからこそ読者の共
感を呼ぶのではないだろうか。
興味を持ったことを調べて、ま
とめて、形にする。それが様々
なご縁で多くの人の目に留まる
ようになった。そんな等身大の
かべ新聞だからこそ、誰の心にも
訴えるものがあるのかもしれ
ない。可琳さんは行基像をきつ
かけとして仏教に出会い、多く
の人との出会いを通してその魅
力を味わってきた。それが仏女
新聞として、また多くの人の仏
教とのご縁を結んでいく。

仏教への入り口はいたとこ
ろに開いている。現代にあつて
は日本各地で仏教にかかわるイ
ベントが開かれたり、Twitterで
僧侶と交流したりと新しいこと
もたくさんある。しかしそうで
なくとも、私たちの暮らしのそ
こかしこに仏教はある。食事の
後に手を合わせて「ごちそうさ
までした」というとき、お寺の
前にある掲示板を目にしたとき、
駅前の銅像がなんとなく気に
なつたとき、そしてかべ新聞で
お寺のことを読んだとき。この
フリーペーパーを手にとってく
ださったあなたにも、どうかご
縁がありますよう。

可琳さんのなかでは、仏像が生きている



文／竹林真悟

北海道生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。満誓寺副住職。これまで100カ寺以上に参拝。趣味はガンダム。

お寺でよく見かけるけれど なんだろ“アレ” Vol.8

見たことあるある、でも、よくよく考えてみれば「なに?」「なぜ?」であふれているお寺。そんな「?」を、お坊さんならではの視点でご紹介!

Hey! Don't think. Feel!



「定規筋」という寺格を表す白い五本の線が入った西本願寺の築地塀(重要文化財)。

大学4年生の時、2年生対象の英語の講義を手ぶらで受講していた。カナダ人講師と下級生が意思疎通している光景に感動したもののだが、それでも、言葉は便利な道具、程度にしか思っていなかった。しかし最近、あるフランス現代思想の学者さんが「言語があつて人は初めて思考できる」と話されているのを聞いて、言葉は道具以上のもので、それがなければ目の前にあるモノが何であるか認知すらできないことに気づかされた。「あれが月ですよ」と指差してもらわなければ、月を見つけれない。かといって、指し月ではない。まるで、古くから仏教でいわれる「指月の譬」のようだと思つた。

また別の機会で、フリーランスのライターさんから「人は言葉でひとつの世界をつくる」と聞かせてもらった。文



海龍王寺の築地塀(伝・室町時代。白漆喰の土だったが、長い年月の風雪で下地がもき出し)。が、その姿もなかなかよもんだ。

章には書いた人の意志や思考、人となりが見れるという。そう。言語や言葉、文章は単なる道具なんかじゃなくて、形のないものをこの身に感じさせてくれる、大事な、よすが、だったのだ。

それとよく似ているのがお寺の塀だ。まるで塀は言語や文章のようなものだ。どこにでも存在している悟りと救い、それを市井のある部分をあえて区切って囲うことで、そこが救いの場であり、つかまえない如来の法を留め、伝える場所であることを人々に知らしめているからだ。どなた? 無理やりだな、なんて思つた人は。

お寺の塀は、自己主張しすぎたり、景観を損ねたりせず、



東大寺の築地塀(写真左)。丸い瓦を使った本瓦葺き。浸透する雨水の対策として幾重にも積まれた瓦の下地が露出している。もともとは民家の土塀(写真右のように、白漆喰や土が塗られていたと思われる)。

それでいて個性的で、ものによって年輪を感じる風格と、存在感があるものばかりだ。塀という漢字の部首は土偏だから、土で作られているのが前提。だけど、人々の工夫によって、頑丈な石造りや簡易な生垣のようなものも作られたので、他と呼び分けられて「土塀」とか「築地塀」と言われるようになったようだ。単に土を積み重ねただけじゃ脆くて土塀は崩れてしまうから、土塀には長く残せるような技術が至るところに施された。土を突き固め高さをと

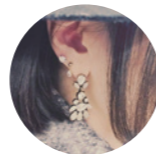
り、屋根を掛け、瓦を葺き、時には塀そのものに白漆喰を塗り、雨水の跳ね上げで削られないよう土台部分には石積みするなどした。

「瓦は地震でズレるし、水が染み込んで冷えれば割れる。土塀が何百年もここに残っているという事は、災害の度にしっかりと修繕されてきたからだ。そしてそれこそが、たとえ今コンクリートに変わっていたとしても、先人たちが末代まで伝えたい価値のある尊いものを塀で護ってきた証拠でもある。

「法」や「救い」の実態や輪郭はつかめないけれど、塀を見ることで、内側に護られた法の重要性や信仰の大きさは想像することができる。

ブルース・リーが映画『燃えよドラゴン』で言い放った有名な言葉「Don't think, Feel.」(考えるな、感じる!)には続きがある。「It's like a finger pointing away to the moon. Don't concentrate on the finger, or you will miss all the heavenly glory.」(月を指差すようなものだ。指を見ていたら栄光はつかめない)

塀、いかがでした? 感想は「へー」が有り難い。



文／林中えみり

生活圏にお坊さんがたくさんいる環境で育った影響でお坊さん好きに。でも仏教の知識は人並み以下、勉強中。

フェリシモ×フリスタ コラボ商品開発レポート Vol.2

「フェリシモおてらぶ×フリスタのコラボグッズを制作する」というハッピーな企画が始動しました。その激アツ企画会議の様を、ギュッとまとめてご報告!



ご朱印帳の鳥枢沙摩明王(右上)、三津寺のトイレの絵像(左上)、北欧のクッション(左下)を見ながら、「明王さまを象(かたど)れたらいいよね」と話している図

約1年ぶりとなった「おてらぶ×フリスタ」のグッズ制作座談会。なかなか予定が合わずでしたが、やっと第2回の開催と相成りました。

みんな春の陽気にあてられて、頭がポワーンとしていたなかがすが……。差し入れをもぐもぐいただきながら進めることができました!

「トイレの神様」として有名な鳥枢沙摩明王をモチーフに話が進んでいるグッズ制作ですが、第2回目 directional が固まりました★

気になるグッズは、神で紙を隠す!? 「トイレトペーパー」の目隠しと、気分もアがる匂い袋「浄化サシェ」。

目隠しは、言葉の通り目隠しのためのグッズ。お手洗いにある見せたくないものたちを、おしゃれに&ありがたく隠せる品物です!

サシェは、良い薫りが好きな女子は必見★お香の薫りで癒されて、しかも飾りたくなるようなサシェがほしい〜! ということで、多めに盛り上がった品物です。

基本的にはトイレグッズとして提供するけれど、「思いのままに自由に使ってもらえるもの」「好みが変わらないデ

ザインで」など、熱に熱を入れて話し合いました!

「おしゃれな雑貨屋さんにおいていても違和感がないぐらゐのシャレオツなデザインで、でも実は鳥枢沙摩明王じゃ〜ん!」「浄化の神様だし、お手洗い以外にも俄然★置きたいじゃ〜ん!」となるような素敵なグッズを完成させるべく、全員全力でウキウキしながら取り組んでいます!

逆にみなさまに使い方を提案してもらえたいことを期待! して、ドキワクしています★

より多くの仏教・鳥枢沙摩明王ファンのみなさまに愛されるものを世に出せるように、また、グッズを通して鳥枢沙摩明王に出逢っていただけのように、今後も激アツ座談会を続けてまいります!

今回の座談会はい体いつなのか!? 仏さまのような半眼で、のんびり見守っていてくださいね★

今回の結論
トイレトペーパーの目隠し、
浄化サシェをつくらう!!

完成までの進捗状況

10%

参加者と僧侶の壁を取っ払う 新イベント「仏教 Q&Q」

仏教のことを知りたいけれど、何から手をつけていいかわからない。
そんな方の質問に、できる限りお答えしようとする試み。
参加者の質問に僧侶が答えるだけでなく、僧侶からも質問するかも。
初めから最後まで質疑応答、極めてゼミ風のイベント。ぜひご参加ください。



EVENT info.

「仏教 Q&Q」

7月28日(日) 大阪・本願寺津村別院(北御堂)

開催時間：15:00～17:00

参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)

定員：15名

住所：大阪府大阪市中央区本町 4-1-3

担当：竹林真悟、若林唯人(ともに浄土真宗本願寺派僧侶)

(申) <http://www.freemonk.net/events> (問) info@freemonk.net

答えを教えるだけが僧侶にあらず
互いに聴きあう
フリースタイル講座

EVENT info.

分かち合いで生まれる 豊かな時間

「アラサー僧侶とゆるーく話す会」

6月8日(土) 14:30～17:00 大阪・正覚寺

参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)

定員：12名

住所：大阪府大阪市浪速区立葉 1-3-21

※終了後、懇親会を予定しております

(申) <http://www.freemonk.net/events>

(問) info@freemonk.net



これから開催される フリスタ主催イベント

アラサーのお坊さん数名とゆるーくお話をする会です。話のテーマは、あなたの話したいこと。普段の生活の中でモヤモヤしていることや、とにかく誰かに聞いてほしいことなど、何でも構いません。単純にお坊さんと話してみたいという方、お坊さんの生態や仏教に興味のある方、ただただゆったりと時間を過ごしたい方も歓迎です。お茶とお菓子をいただきながらお坊さんと一緒に考えてみませんか。お気軽にお立ち寄りください。

みんなで学ぶ お経のことば

『はんにゃしんぎょう』を咀嚼する会 #2

6月16日(日) 15:00～17:30 大阪・七宝山大福院 三津寺

7月22日(月) 18:30～21:00 京都・桃源山 明覚寺

参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)

定員：20名

住所：6月16日＝大阪府大阪市中央区心斎橋筋 2-7-12

7月22日＝京都府京都市下京区平野町 783

担当：若林唯人(浄土真宗本願寺派僧侶)

テキスト：『般若心経・金剛般若経』(岩波文庫)

※筆記用具をご持参ください

※こちらでレジュメを準備しお配りいたしますが、

予習されたい方はテキストをお買い求めください

※両日とも内容は同じです

※終了後、懇親会を予定しております

(申) <http://www.freemonk.net/events>

(問) info@freemonk.net



『般若心経』の一つひとつの言葉を丁寧に、噛み砕いて味わう勉強会。浄土真宗の僧侶・若林唯人が担当します。浄土真宗では『般若心経』を唱えないこともあり、このお経をたずねるのは私もこれが初めてのご縁。ご参加いただいた方たちと一緒に、仏教のエッセンスを学べたらなと思っています。初めて仏教を学んでみようかなと思われた方はもちろん、写経や読経で馴染みのある方も僧侶の方も、どなたもお気軽にお越しください。



つづく

※ 正法・像法・末法の年数については諸説あります。

ご支援のお願い

フリースタイルな僧侶たちの活動を応援して下さるサポーターを募集しています。

スクーターで通り過ぎる姿か、お葬式やご法事。僧侶を見かける機会はそれぐらいで、有名なお寺以外はなんだか入りにくい。僧侶としてこの現況を申し訳ないと思うし、もったいないとも思います。

なぜ苦しみは起こるのか。自分も他人も仕合せになるために、いかに生きればよいのか。2500年にわたり伝わってきた仏教のポテンシャルは確かで、今を生きる支えになると私たちは信じています。

固定観念にとらわれず、フリースタイルにフリーマガジン・ウェブ・イベントを通して、軽やかに仏教と出会えるように、安らぎや気づきが得られるように、持てる力を尽くしてまいります。

私たちの取り組みに共感し、応援して下さるサポーターを募集しています。仏教を身近に、日常に。そして、あなたの生きる力に。仏教が生きる安らかな社会をご一緒につくっていきましょう。

協賛法人サポーターリスト

浄土宗▶安心院(八幡市)／安楽寺(南丹市)／延命寺(堺市堺区)／吉祥寺(萩市)／九品寺(京都市南区)／教安寺(福津市)／慶藏院(伊勢市)／光照院(台東区)／金剛寺(京都市東山区)／西明寺(尼崎市)／西楽寺(京都市伏見区)／西林寺(大阪府泉南郡)／浄栄寺(東近江市)／正覚寺(青森市)／正善寺(伊丹市)／勝楽寺(町田市)／真光寺(今治市)／新善光寺(札幌市中央区)／崇福寺(甲賀市)／善願寺(甲賀市)／善道寺(札幌市豊平区)／臺鏡寺(枚方市)／檀王法林寺(京都市左京区)／潮音寺(東京都大島町)／長壽院(台東区)／梅窓院(港区)／法岸寺(静岡市清水区)／寶松院(港区)／法善寺(大阪府中央区)／妙慶院(広島市中区)／無量光寺(鳥取市)／湯川寺(函館市)／龍岸寺(京都市下京区)

浄土宗西山禪林寺派▶光明院・田中医院(京都市中京区)／宝泉寺(津島市)

浄土真宗本願寺派▶光栄寺(井原市)／幸教寺(大阪府生野区)／光照寺(大阪府東淀川区)／光徳寺(みやま市)／光明寺(奈良県吉野郡)／西教寺(生駒市)／西方寺(大和郡山市)／西法寺(北九州市)／浄元寺(尼崎市)／正源寺(大津市)／正宣寺(大阪府北区)／浄満寺(大阪府西成区)／信覚寺(福岡県朝倉郡)／崇興寺(福山市)／養法寺(金沢市)

真宗大谷派▶覚法寺(福岡県八女郡)／称讃寺(新潟県長岡市)／正蓮寺(伊豆の国市)／超覚寺(広島市中区)／宝皇寺(函館市)

浄土真宗東本願寺派▶緑泉寺(台東区)

天台宗▶圓融寺(目黒区)／大圓寺(目黒区)／本覺寺(横浜市鶴見区)

高野山真言宗▶弘法寺(和泉市)／業師院(岸和田市)

サポーター特典

- 弊誌を毎月お送りいたします(年間4回)。
- 主催イベントにおいて、優待いたします。
- 法人サポーターの方は、誌面にお名前を掲載いたします。

ご支援くださる方は、下記サイトのフォームにご記入・お申し込みください。担当者より、振込先などについて折り返しご連絡を差し上げます。

<http://www.freemonk.net/contact/support>

会費振込先

三井住友銀行／園田支店(422)／普通／5092943
フリースタイルな僧侶たち／代表 加賀俊裕

協賛年会費	個人=5,000円 法人=30,000円
-------	----------------------

お振り込みの際、あらかじめ下記のいずれかにご連絡くださいませ。

Tel. 050-5583-4330 E-mail. info@freemonk.net

単立▶五百羅漢寺(目黒区)／瑞聖寺(港区)／法然院(京都市左京区)

真言宗豊山派▶寶積寺(松山市)

真言宗御室派▶三津寺(大阪府中央区)

真言宗須磨寺派▶須磨寺(神戸市須磨区)

臨濟宗妙心寺派▶円光寺(台東区)／宜雲寺(江東区)／勝林寺(豊島区)／陽岳寺(江東区)／龍雲寺(世田谷区)

臨濟宗建長寺派▶掃一寺(静岡県賀茂郡)／東光禅寺(横浜市金沢区)

曹洞宗▶四天王寺(津市)／瑞生寺(浜松市中区)／南詢寺(守口市)／鳳仙寺(宮城県亶理郡)

日蓮宗▶池上實相寺(大田区)／法華寺(亀岡市)／妙海寺(勝浦市)／妙見寺(橋本市)

時宗▶正法寺(京都市東山区)

*敬称略・五十音順

フリースタイルな僧侶たち Vol.54

2019年5月1日発行
発行人 加賀俊裕

発行所 フリースタイルな僧侶たち
〒542-0085
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12
☎050-5583-4330

編集
若林唯人・光澤裕顕・飯村絵理子

デザイン
梅本龍青

企画協力
竹林真悟・飯野顕志・福山智昭・久松裕彦
稲田瑞規・河村英昌・水戸智舟・財津宏経

www.freemonk.net

「修行体験ブッダニア 2019」 開催決定&運営スタッフ募集!!

今年で3回目の開催となる人気イベント「修行体験ブッダニア」は、会場を浄土宗・應典院(大阪市天王寺区)に移し開催いたします。今年も運営スタッフを募集し、修行体験のコンテンツと一緒に考えます。皆さまのご応募をフリスター同、心より楽しみにお待ちしております。



「修行体験ブッダニア」 運営スタッフ募集

仏教がお好きな一般の方、僧侶の方、どんな方でもご応募できます。興味を持たれた方は buddhania@freemonk.net までご連絡ください。イベントの詳細はFacebookまたはウェブサイトにて随時お知らせしていきます。

オフィシャルサイト: <https://www.freemonk.net>

修行体験 **ブッダニア** 2019

開催日: 2019年9月29日(日) 11:00~17:00 予定
会 場: 應典院(大阪市天王寺区下寺町1-1-27) <https://www.outenin.com>

2019

9.29 Sun

11:00 — 17:00



心といのちの電話相談室

☎ 03-3436-6823

相談受付 毎週月曜日・金曜日 10:00~16:00 (祝日、盆、年末年始は休業いたします)

あなたを支えたいと
願う人がいます。
つらいお気持ち
おはなしてください。

「心といのちの電話相談室」の特徴

研修を受けたお坊さん、
お寺の奥さんがお話を伺います

多彩なご相談に対応します

周囲の方もご相談ください

「心といのちの電話相談室」の約束

秘密は必ず守ります

勧誘はしません

無料でお受けします

「心といのちの電話相談室」事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 公益財団法人 浄土宗ともいき財団 内
TEL.03-3436-3353 FAX.03-5472-4878 ホームページ <http://tomoiki.jp/>

詳しくは

心といのちの電話相談室 検索